

鳥獣被害にどう挑んでいくか？

わたしは、丹精込めて育てた農作物が鹿に荒らされ、何度も悔しい思いをしてきました。山沿いの多くの農家が鳥獣害対策に苦慮しています。特に、ひとり暮らしの高齢者で農業を営む人は、鹿よけネットを張るなどの作業が

難しく、たびたび被害にあっしまい、野菜をつくる意欲をなくしてしまうとの声をよく聞きます。

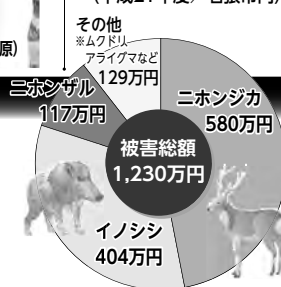
そこで、鳥獣被害対策の現場取材し、これにどう挑んでいけばよいのかをレポートします。



市民広報特派員
井上美恵さん(赤目町柏原)

市民広報特派員レポート

鳥獣別の農作物被害金額
(平成21年度/名張市内)



鳥獣による被害の実態は？

昨年度の野生鳥獣による農作物の被害総額は、名張市内で1,230万円。水稻、野菜、豆類、いも類、果樹と被害にあう農作物はさまざまです。

二ホンジカによる被害は、国津などの山間地から、錦生や美旗地域などの平坦地まで広がっています。イノシシによる被害は山間地が大半ですが、平坦地でもみられ

ます。二ホンザルは、青蓮寺湖を境に市の南東部と、南西部に2つの群れがあり、農作物への被害に加え、住宅地にも頻りに現れており、人への被害も心配されます。

どんな鳥獣被害対策があるの？

市による主な対策・支援

▼ネットなどの購入費補助

鹿よけネットや電気さくなどの購入金額の半額(上限5万円)を補助しています。
※原則複数人で申込。単独申込の場合は、5アール以上の田畑への設置などの条件あり。

▼有害鳥獣の駆除

鹿やイノシシなどが増えすぎないように、名張市猟友会に捕獲を委託しています。

▼現地調査・技術指導

鳥獣被害対策の指南役となる専門の技術者や猿のパトロール員を確保し、鳥獣被害地域での現地調査や技術指導を行っているほか、猿の出没状況をインターネットなどを通じて情報提供しています。

▼広域的取組み

宇陀市と、猿の生態や個体数を調査したり、地域単位でのネットや電気さくなどの設置を補助したりしています。

◎詳しくは市役所4階農林振興室(☎63-7625)へ

地域の対策事例【田畑の囲い】

奈垣地区では、昨年、市の補助金を利用し、住民が協力して、地区内ほぼ全ての田畑の周りに電気さく(猿用)やネットを設置しました。作業に加わった中山ツヤ子さんに、そのきっかけや効果について伺いました。



鳥獣被害対策をしていない畑が数ヵ所あったのですが、そこを目当てに猿や鹿などが寄ってきていました。所有者は、「一人だと対策が難しい」ということでしたので、地域で助け合ってネットやさくを設置。その結果、猿の群れがあまりやっこなくなりました。スイカやかぼちゃ、とうもろこし…。これまで、被害にあってきた野菜も収穫できました。

奈垣には、平均年齢78歳の青空市グループがあります。野菜づくりに一生懸命取り組み、生きがいにもなっています。最近はアライグマの被害も出始めていますが、地区を活気づけていくためにも、今後も、鳥獣被害対策を地区のみんなで継続していきたいですね。



地域ぐるみの鳥獣被害対策で大きな効果が

地域の対策事例【追い払い】

「宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会」では、モンキードッグ(猿追い払い犬)を市民とその飼い犬を対象に養成。名張市では、7頭の犬が認定を受け、今年5月から、各地区で猿の追い払いに効果を発揮しています。

自宅のある赤目町一ノ井と出勤依頼のあった矢川地区で、2頭の犬とともに活躍している畠山ひさ子さんにお話を伺いました。

ルートを変えながら、毎日のように犬と散歩しているうちに、猿は減ってきましたね。散歩中、犬が猿に反応して、山へ追い払いに走っていくこともあります。こうしたことを繰り返すことで「ここへ来るな」という猿へのメッセージになるんだと思います。

ただ、5~10分ぐらいですが、犬を放しますと、地区の皆さんの理解が不可欠です。徹底して犬を訓練しましたので、決して人に噛み付くことはありませんし、必要に応じて犬を呼び戻せます。

1地区で猿を追い払っていても、隣の地区へ移動するだけ。もっとたくさんの人に飼い犬を訓練していただき、各地区で連携できると効果が上がるはずですよ。



モンキードッグ(猿追い払い犬)の可能性

市民参加の広報紙づくりを行うため、市では4人の市民広報特派員を委嘱しています。地域のさまざまな課題について、市民広報特派員がレポート(報告)します。

市民広報特派員 井上さんの視点

「畑に侵入してきた猿が野菜の味を覚えると、もう自分でどんぐりは採らない」という獣害対策指南員の田村さんの話はすごく印象的でした。畑育ちの鳥獣が増えていくと、さらに対策は難しくなってしまうでしょう。

奈垣地区の取材では、地区のお年寄りの皆さんにお集まりいただきましたが、「野菜作りに励みがあった」と、とってもお元気そうでした。ネット付近に猿の好む作物を作らないなど

の知恵がどんどん出てきて、わたしも元気をいただきましたし、地域全体での囲いの対策が必要なんだと感じました。

一方、住民が協力してモデルガンなどで猿の追い払いをしている地区もありますが、「モンキードッグ」にも新たな可能性があると思いました。畠山さんは、農家ではなく、ボランティアで活動されていて、農家の人にご苦労様と声をかけられると励みになるそうです。

わたしの畑にも今年から、鹿よけネットを設置しようと思います。また、エサ場を与えないためには、要らない野菜を収穫せずに畑に放置することや、柿の実などを放っておくこともやめておきたいものです。

ただ、農家の高齢化が進む中、鳥獣被害対策は、個々の問題でなく、市の支援も活用しつつ、地域全体で粘り強く取り組んでいくべき課題であると強く感じました。

2010 国勢調査 調査票の提出はお済みですか? 町名張市国勢調査事務所 63-0020

アドバンスコープ ADSホール 催物

- 秋の装い着付発表会
日時 11月6日 午後2時~4時
◎入場無料
第15回ピアノ発表会
日時 11月7日 午後1時30分~3時45分
◎入場無料
なぞがたりフォーラムなばり
日時 11月13日 午後2時~5時
◎入場無料
名張市障害者教養啓発事業 湯浅誠さん講演会
日時 11月14日 午後1時30分~3時30分
◎入場無料
YUMICOゆみこ 3rd Concert
日時 11月20日 午前11時~午後5時
入場料 2,200円(当日2,500円)
JA伊賀南部ふれあいオンステージ招待会
日時 11月23日 午後2時~3時40分、午後5時~6時40分
宝くじ文化公演 わらび座
歌舞劇ロマン『カンアミ伝』
日時 11月27日 午後2時~4時
入場料 一般 2,000円 高校生以上 1,000円
タンゴエモーション
日時 11月28日 午後3時~5時30分
入場料 3,800円(当日4,300円)

なせ宿 催し
☆キャンドルナイトコンサート 秋
日時 10月30日 午後5時30分~8時
懐かしのフォークやポップスをお楽しみください。

離乳食の進め方や試食
生後9ヵ月からの離乳食教室
日時 11月10日 午後2時~3時30分
場所 保健センター(朝日町)

まちのフィールドワーク
身近な自然を楽しいまちづくりの素材にする方法
日時 11月10日 午前11時~午後4時
集合場所 赤目四十八滝キャンプ場

暮らしの情報

親子で楽しくやさしいメニューに挑戦!
子育て講座「親子クッキング」
参加者募集
日時 12月6日 午前9時45分~午後1時30分
場所 保健センター(朝日町)

小学校で学習支援してみませんか?
「学生教育サポーター」を募集
日時 12月6日 午前9時45分~午後1時30分

国津の杜の行事
陶芸教室 紅葉の葉などを使って、秋の季節をかもし出す器を作ります
日時 10月31日 午前10時~正午
講師 角谷 真人さん 参加費 2,200円

国津の杜の行事
韓国料理教室 温めん・ピリ辛から揚げ・ごまおこしなどを料理します
日時 11月2日 午前10時~午後1時
参加費 1,300円 講師 李 辰淑さん

鳥獣被害対策のポイントとは?

鹿よけネットの張り方など鳥獣被害対策の具体的なポイントを教えてください。
鹿よけネットを張るとなれば、高さを意識する人が多いのですが、鹿は飛ばないので、高さは2mもあれば十分。それより、ネットの下が大切。20cmのすき間があれば、大型の鹿でも侵入します。また、鹿はネットを噛みちぎります。鹿の歯の形状上、網目は8cm以下のものを。のり養殖の再利用ネットは安く購入できますが、15cm程度の網目のものが多く、噛みちぎられてしまいます。それに、ネットに染み込んだ塩分は鹿を呼び寄せてしまいます。イノシシよけのトタンさくは、米や野菜の目かくしの役割もあるので、つなぎ目が開かないようにしてください。電気さくは、いのししの鼻の先に触れる20cmの高さに線がないとダメ。毛にあたって電気が流れないのです。猿はかしこいので、エサを得るメリットよりも、田畑に行くリスクの方が高いということに分らせる必要があります。このように、動物の特徴を知らないと、対策の労力は無駄になってしまうことがあります。分からないことがあれば、農林振興室(63-7625)へご連絡ください。

昔は田畑がこんなに荒らされなかったのに。何かいい手はないのでしょうか?

昔は、山でエサを採っていた鳥獣が、田畑に現れているのです。山の木の実が少なくなったというわけではありません。田畑のエサの味を覚えてしまったのです。畑育ちの鳥獣が増え、山よりも、田畑でエサをとろうとします。「猿は全部殺してしまえ」という声がありますが、一度、宇陀市で猿を全頭捕らえたことがありましたが、他の地域からやってきて増えてしまい、意味がありませんでした。鳥獣を山へ帰して、山での生活に戻していくことが解決への道。そのためにも、粘り強く田畑の囲いや鳥獣の追い払いを続け、エサ場を与えない環境づくりを進める必要があります。ただ、一部で鳥獣被害対策が進むと、他所で被害が出ます。富貴ヶ丘などの家庭菜園でも被害が出ているのはこのためです。大切なのは、地域で連携して取り組むことだと思います。



※「提案公募型事業」とは、市民活動団体からの事業提案を受け、市の委託・補助で実施される事業です。